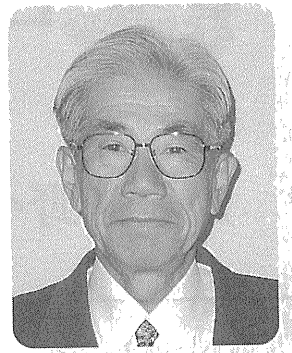


巻頭言

年頭のご挨拶



玉光 弘明

2004年（平成16年）の年頭にあたり、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

昨年は、長い間続いたわが国の経済不況・景気の低迷から、やや回復のきざしが見えてきて、少しばかり明るい気持ちで新しい年を迎えることが出来ました。

設備投資の増加も製造業に止まらず、それ以外の産業にも見られるようになり、デフレも底入れしたといわれますが、中小企業等が本当に再生し、わが国経済が本格的に回復するためには今年が最も重要な年となるように思われます。

第二次小泉内閣も発足し、すでに3年になろうとする不良債権処理など構造改革を早急に成しとげて、わが国の社会経済が安定することを願っております。

国際的にも、各地で事件が生じ、アフガニスタンやイラクの復興をめぐることは、地域住民の待望するにもかかわらず、ゲリラ活動が激しく、復興支援に近寄れない状態が続いています。わが国の最も得意とする海外技術協力がはやく活発に行えるようになることを期待しているところであります。

日本建設機械化協会におきましては、その多くの会員は建設業に係わるものであり、最近のわが国の緊縮財政と、特に建設事業の他の部門に比して、より削減され続けている予算の現状にかんがみ、会員の皆様が非常に御苦労されておりますが、それぞれ独自の構造改革をなしとげ、他の産業と同様に復活される事を期待しております。

当協会としましては、最近取り組んできました組織と業務の改善策の一環として、統合調整のための企画部と企画会議の設置、建設機械化研究所から施工技術総合研究所への変更等により組織の近代化をはかり、業務の内容も新しい時代の要求する課題である、排気ガスその他の環境対策、新技術の普及促進、安全対策、IT化対策等について重点的に取り組んで来ました。新年に入っても、これらの活動を更に充実させてまいりたいと思います。

昨年度は9月上旬に CONET 2003（建設機械と建

設施工技術の展示会）を、一般市民への建設事業のPRに重点を置き少し変わった視点から実施し、多くの関係者から好評を得ました。

また昨年の除雪機械展示会は小松市で行われましたが、今年も新年になってさっそく、2月中旬に山形県米沢市でおこなわれます。更に工夫をこらした展示会になる予定です。

また、昨年からはまった「建設機械要覧」の改定作業も進み、IT時代にふさわしい使いやすいものとして年度末には完成する予定です。

今年の初めの特に大きな仕事としては、最近数年にわたって検討してまいりました「建設生産システム研究」の成果をもとにして、更に昨年末集中的に行われた各委員会等の議論をふまえて、当協会のヴィジョンとも言うべき協会活動の理念を再認識し、それに沿った具体的な協会の活動方針を作成したいと考えています。

日本建設機械化協会は戦後50年間にわたりわが国の戦後復興と、それに続く高度成長時代に建設施工の機械化により建設コストの縮減、施工時間の短縮、安全性の向上などを成しとげ、社会経済基盤の整備に大いに貢献し成果をあげて来ました。これからの新しい時代に更に貢献できるように、当協会の最も秀れた特徴である「会員が建設業、建設機械メーカー、コンサルタント、専門工事業、リース・レンタル業、商社等々多種部門から構成され、多分野にわたる幅の広い知識を結集できる」ということを生かし、更に研究所と支部をあわせて全国的に総合的に活躍できるということを協会活動の基本理念に置いて、これからの時代に貢献して行きたいと考えます。

会員の皆様のご協力とご努力をお願いする次第です。

本年も一層のご健康とご活躍を祈ります。